

作目名	ばら
-----	----

作型名	土耕栽培
-----	------

月 旬	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
定植年																															下記参照						
2年目以降																															下記参照						

△ 定植 × 最終ピンチ ⊗ 剪定 ■ 収穫 『〇〇』 暖房 施設

○技術体系設定の前提条件

(1)対象地域

岐阜、西濃、中濃

(2)立地条件

①気象条件

ばらは光線に対する要求が強く、夜温は16～18℃と高い方がよく生育するので、冬季の日照に恵まれた比較的温暖な地域に適する。

②ほ場条件

深根性で耐湿性が弱いので、保水力、保肥力に富み、しかも排水、通気の良い土壌がよい。好適pHは5.5～6.5である。

③栽植株数（10a当たり）

5,000～5,500本

(3)目標収量（10a当たり）

12～13万本／10a（品種により異なる）

○施肥基準

ばらは、年間数回にわたり連続的に栄養体である切り花が続けられる。しかも高品質多収を要求されるため、栄養補給、施肥に至急される割合が強い。先進県の施肥例をみると余りにも差が大きい。その理由は作型、土質、水分、管理その他の影響に寄るものと思われる。

(1)各地の調査による施肥量の目安（10a当たり・kg）

施肥成分	滋賀県	神奈川県	千葉県
窒素	50 ～ 120	47 ～ 150	20 ～ 130
りん酸	45 ～ 132	106 ～ 211	50 ～ 250
加里	28 ～ 90	20 ～ 98	30 ～ 100

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 土壌診断と生育状況に基づく施肥管理での神奈川県園試の試験によると、冬切り主体の作型での温室面積330m<sup>2</sup>（植え付け株数2,000株）当たりの年間施肥成分量は窒素35kg、りん酸35kg、加里30kg前後となる。
- 2 新・改植時には、十分除塩した完熟堆肥5,000kg/10aを目安に施用し、土づくりに心がける。
- 3 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 4 具体的な施肥量は、土壌診断値とあわせて、ばらの生育状況を綿密に観察したうえで決定する。オランダでは6週間ごとの土壌診断を理想としている。
- 5 冬季は日朝が短く、光量も少ない。また、昼夜間とも気温、地温が低く、ばらの生育は春季、秋季に比べてにぶい。一方、真夏の高温も施設ばらにとっては不良環境である。このため、厳寒期と盛夏期は春季、秋季よりも少なめの施肥量がよい。また、冬は速効性化成や液肥を主体に施すとよい。
- 6 一般的に黄色系品種やピンク系品種は多肥で色がぼけやすい。根の活力低下に伴う葉のクロシスの発生にも品種間差があり、多肥条件下ではうどんこ病が発生しやすいが、これも品種間差がある。

作型名	ロックウール栽培
-----	----------

月 旬	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
定植年																															下記参照						
2年目以降																															下記参照						

△ 定植 × 最終ピンチ 収穫 暖房 施設

○技術体系設定の前提条件

(1)対象地域

岐阜、西濃、中濃

(2)立地条件

①気象条件

ばらは光線に対する要求が強く、夜温は16～18℃と高い方がよく生育するので、冬季の日照に恵まれた比較的温暖な地域に適する。

②ほ場条件

隔離栽培なので土壌条件は関係ないが、温室は採光率が高く、南北棟で軒高2m以上、保温効果の点からは1棟330m<sup>2</sup>以上が好ましい。

③栽植株数（10a当たり）

5,500本

(3) 目標収量（10a当たり）

12～13万本/10a

○施肥基準

(1)施肥基準量

①多量要素の処方(me/l)

施 肥 成 分		園 試 処 方	愛知園 研処方
窒 素	NO <sub>3</sub> -N	12.0	11.0
	NH <sub>4</sub> -N	1.0	2.0
りん 酸		3.0	3.5
加 里		6.0	4.5
石 灰		6.0	6.5
苦 土		3.0	2.0
硫 黄		3.0	2.0

②微量元素の処方(ppm)

施 肥 成 分	園 試 処 方	愛知園 研処方
鉄	3.0	2.0
マンガン	0.5	0.5
硼 素	0.5	0.25
亜 鉛	0.05	0.20
銅	0.02	0.02
モリブデン	0.01	0.05

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 使用する源水を分析し、各メーカーのロックウールシステムに適合した養液管理を行うのが一般的であるが、ECやpH測定は随時行いチェックを怠らないようにする。
- 2 季節別濃度管理  
夏季の高温・強光期には窒素、リン酸、カルシウム等の吸収量は低下し、冬季には吸収量が高くなるので、培養液管理は、秋から冬にかけては給液濃度を徐々に上げてECを1.0~1.5mS程度として株作りを行う。
- 3 銅欠乏、マンガン過剰に弱い品種群は、ノブレス、パレオ90等で、ややマンガンの高濃度を必要とする品種群はローテローゼ、ティネケ等である。マンガン濃度は、ノブレスタイプで0.3~0.5ppm、ローテローゼタイプで0.5~0.7ppmが適正值とされている。